

美里消防団紹介



津市美里消防団長 増井 公生

美里町は、旧津市の西に隣接し、町の北側には標高八百メートル余の経ヶ峰、そして西側には、風力発電の風車が立ち並ぶ布引の山々がそびえ、長野峠を越えると伊賀市へと通じます。南には、旧久居市の榊原温泉、東は長谷山があり、山に囲まれた風光明媚で自然あふれる地域です。

昭和二十九年十月に長野村、高宮村、辰水村の三村が合併して美里村が誕生し、美里村消防団が発足しました。以降五十一年間、諸先輩方の献身的な努力とたゆみないご活躍で伝統ある美里村消防団が築かれてきましたが、平成十八年の市町村合併に伴い、安芸郡美里村から津市美里町になり、新たに津市美里消防団として新しい歴史を刻み始めました。

近年の災害を振り返ってみますと、平成十四年三月に経ヶ峰八合目付近で発生した林野火災では、消防本部と当消防団、また三重県防災航空隊をはじめ、奈良県、滋

賀県の防災ヘリコプターの応援による空中消火などで、被害を最小限に食い止めることができました。この種の林野火災における消火活動の難しさを痛感いたしました。



出初式で一斉放水する消防団員

今後、この地方でも東海・東南海・南海地震の発生が危惧される中、美里町でも家屋の倒壊や土砂崩れ、火災

などの被害が予想されます。当消防団は、各自治会と自主防災組織との連携を図る避難誘導や救出救護などの訓練を献身的に実施しております。

特に災害時には、地域に根ざした消防団活動を期待する住民も多く、「私たちの街は私たちが守る」という使命のもと、団員一丸となつて、日常の訓練を通して、より一層の努力をしていきます。

緊急消防援助隊

近畿府県 合同防災訓練を実施

十月二十四・二十五日の両日に京都市消防活動総合センターと桂川緑地公園で近畿府県合同防災訓

練が実施されました。

京都市を震源とするマグニチュード七・五の直下型地震（花折断層地震）が発生、震度七を観測し、市内を中心に家屋の倒壊及び火災橋や道路の損壊、土砂崩れによる



指揮をする稲田県隊長

ライフラインの寸断により、多数の死傷者が出ているという想定で訓練が行われました。

消防機関八十三本部（航空

部隊十隊、地上部隊百五十四隊、参加消防隊員六百四十二名）、その他関係機関百五十九機関（航空機十五機、車両二百四十八両、参加人員千六百五十五名）に及び大規模な訓練で、三重県隊は七本部、十一隊、三十五名で、当消防本部からは、三重県隊長としても参加しました。

三重県隊は、現場到着後、速かに到着報告、間もなく長距離送水運用訓練及び野営訓練



全車両による一斉放水

に参加、夜間においては県隊長合同連絡協議会と図上訓練が行われました。

二日目の三重県隊は、座屈高層建物救出訓練と応急救護所運用訓練に参加し、本番さながらに緊迫した訓練が行われました。

隣近所の連携で 見事 消火！

中消防署長から感謝状贈呈

十月九日の夕方に、香良洲町地内で発生した住宅火災で、隣近所の確な連携により被害を最小限に食い止められた功労を称え、十一月七日、香良洲総合支所において、永井久雄中消防署長から感謝状が贈られました。

表彰された方は、伊藤篤さんと妻后子さん、長谷川秀樹さん、藤川とし子さん、土性正一さんと妻豊子さん、藤川順堆さんと息子の妻由加里さん。

火災は天ぷら鍋の火の消し忘れからの発生、隣近所へ大声での火事の知らせや消火器、水道ホースでの消火など、連携プレーにより、見事、消火に成功しました。



左から伊藤篤さん、長谷川秀樹さん、藤川とし子さん、土性正一さん、藤川由加里さん